

静中・静高 関東同窓会 会報

静中・静高関東同窓会
会報 第25号
昭和63年6月23日発行
編集人 月見里得知郎

時局講演会

日本株式市場の現況の

分析と将来の予想

新日本証券会長 大 石 巖氏(53期)



クマンデーから約四ヶ月の今日現在、ダウ平均の戻りは日本九〇%、米三五%、ロンドン四〇%、西独三〇%であるが、この状況は日本が世界株式市場のエンジンカントリーとしてのリーダーシップを握ったことを示している。

昭和六十三年三月十五日午後六時四十分より、築地スエヒロにおいて、大石巖氏をお招きして、講演会を開催した。

1、昭和六十二年十月二〇日のブラ

「輸出依存型から内需拡大型に移行してゆかなくては、日本は国際社会に対応できない」といわれていたが、今、日本はメモの指示に沿った方向に動き出している。これは、まさに日本の柔軟な対応力を示すものである。

2、世界の株式市場

① 株式相場の波は三〇五年が一つのパターンである(一〇一五%位の調整の動きはあるが)。昭和五七年から世界的に株式は上昇トレンドにのった(米国一夏頃日本一秋)。

この第一ラウンドの波はブラックマンデーで一応終結をみたが、その後日本では早くも第二ラウンドの波にむけて準備が完了し上昇に転じたとの動きが感じられる。

② そもそも米国の株式市場をみると、ゴールデン60という様に一九五〇一六五の間に六・五倍となった。これに比して日本は一九八二一八八の間に僅か三・八倍であった。外人買入はこのあたりにジャパニーズドリームを期待して買入に突進してきていた。そして、現在でも日本の株式市場をとりまく環境は上昇の要因をすべて備えたものである。

すなわち、

(1) 日本は元来工業力の強い製造

業中心の社会であるが、オイルマネーは国内に投資対象となる工業力がないため、米のホテルを買ったり外国へ投資を続けた。その結果現在ではその力を失っている。つまり国内産業の裏付けのない金は所詮力の無い金でしかないのである。日本の場合、現在の様に輸入を増加し内需拡大を続ければ、遠い将来は別として、三〇五年位の間は景気上昇、株価上昇を続けるだろう。これは同時に日本に対する輸出国となる外国を助け、国際経済の上昇を助ける要因となりうる。

(2) 日本企業の業績が上昇を続けている。例えば、新日鉄は一〇〇〇億の赤字から、五〇〇億の黒字に転じた。しかもこれは再建合理五ヶ年計画のスタート段階でのことである。

(3) 金融がゆるい。
・金利が安いので各企業が今のうちに借りていく。
・日銀が各銀行コントロールのために金を貸したが、その金が銀行にだぶつてそれが社会に流出している。

(4) 為替が安定してきている。

(米のドル安定策)

3、この株価の上昇気運は株の需給バランスからも説明できる。

供給は増資又は転債社以外ではなかなか増えないが、需要は増加の一途を辿っている。これは、蓋し、

・企業年金が年率二ケタの割りで増加し、まもなく五〇兆となるが、その運用のために株に対し積極的に使われている。

・丸優の廃止により全預金の最低四〇%(一二〇兆)は銀行から流出するはずであり、それが株・投資に流れるからと考えられる。ちなみに金融資産の運用比率の内、株と預貯金について言えば日本は一一・六%と五五%、米国は二三%と三三%であり、今後、米国型に近づくと思われる。

C、外人買入も今年に入ってから増加の一途にある。

4、具体的予想

・株は循環の法則で動く。内需関連を例にとれば、鉄・造船・電気・ガス・金融(銀行・証券)の順に動いて行くことが予想される。

・ダウについては二八、〇〇〇一三〇、〇〇〇は可能だろう。

5、検討課題

① キャピタルゲイン課税が検討されている。しかし、これは暴落の引き金要因になりうる。イタリ

同 期 会

ヤのミラノでこの課税を発表して三〇%ダウンしたことがあり、法案がほつになったことがある。しかも、今、東京マーケットが世界の中心であり、株が下がると政府がこまるので、いかにショックを少なくするかが課題となるだろう。

② 現在、有価証券取引税は売りの〇・五五%課税であるが、これは妥協の産物であり、①を実行するならなくすべきであるが、純粋の流通税でもないし、また収入が大きいので率は下がるが無くなりはいないだろう。

6、ただし、株は各目の研究と努力なしでは成功せず、証券マンの言いなりではためであることを強調しておきたい。

(文責 87期 平岩正史)

四三期

東京四三期を昨年十一月二十五日銀座の交詢社で開いた。正午からの会合だったので未だ現役で活躍中の北里良夫・倉沢栄吉両君は所用のため残念乍ら欠席された。

静岡より万年幹事の小杉一君がクラス代表で出席され、大阪から平山桂君が遠路を来場された。水戸の坪崎行・関西同窓会支部長の塚本猛次の両君も出席予定のところ急用のため欠席されてしまい、今日の出席者は十四名となった。

正午前より平山君が真先に到着され、幹事の方が遅れてしまった。定刻には殆んど集り、殿りに

長戸君が来場された。

会場を幹旋された柳沢君の挨拶が始まり、一同乾杯して開宴、久しぶりの集りで卒業以来六十年の思い出、戦争中の苦労の話も出て盛会に晩秋のひとときを過すことができた。

昭和三年卒業の我々は六十三年で丁度卒業以来六十年に当るので記念大会を開く事にした。

最後に今井君の音頭で校歌を合唱し、次の再会を約して解散した。

当日の出席者は次の通り。

池谷三郎、今井志郎、小杉一、嶋田富治雄、田崎茂夫、豊島英夫、神戸寛美、西沢純三、平山桂、三

五五期

昭和六十三年四月二十三日、静岡での静中五十五期会が、二年五

か月ぶりに静岡ステーションホテルにおいて開催された。今回は恩師諏訪卓三先生にもおいでいただき出席者は五十名。うち関東同窓会からの出席者は次のとおり。

木村康宏、相馬英夫、武井富夫、辻 弘、長沢栄一、中田吉信、法月重雄、日比光明、山本 武、相川富士雄

なお、今回は卒業五十周年の昭和六十五年に開催の予定。

五七期

本年二月十八日、たまにはお座敷で開いてみようということになり、新宿西口の、新宿ワシントンホテル内の酒場で、同期会を催した。集まる面々、二十一名。関東同窓会の同期メンバーの半数近くが参加した。われわれの期は、比較的集まりがよいと自負しているが、それでも二十名を超えたのは始めてではないかと思う。六十才代前半の年齢になり、余裕が多少とも出てきたためであらう。話し

振りにそれがうかがえた。前にも記したように、関東同期会は年三回開いており、報告を怠っている。六十一年八月以降について略述すると次の通りである。

六十二年八月七日 有楽町

十一月七日 凸版サロン

六十二年二月六日

〃 八月七日 東京八重洲

〃 十一月六日 凸版サロン

(影島利邦)

五九期

それでも青春

四月二十三日、静岡市昭和町の料亭「喜楽」で五十九期の総会が開催された。今回は特に、卒業四

十周年の記念誌を発行しようと、細矢編集委員会を中心に、四年がかりの労作が完成、配布される運びになり、里見(旧姓藤岡)、北川両恩師をお迎えし、同期生も八十四名が参集した。

開会は六時の予定であったが、遠く関西から、又東京方面から早目に続々到着、開始前に一寸、と

二、三、……。

山本輝道君の夫人が「主人が急用でどうしても出席できなくなり誠に残念だ。皆様にくれぐれもよろしく」とのメッセージを持ち、ハイヤーで見えたのには、受付子大いに感激した一幕もあった。

愈々定刻、記念写真の撮影から総会は始められ、高野、大橋両世話人代表の挨拶、経過報告、編集委員への感謝の拍手、続いて、里見、北川両先生に御言葉頂き、海賀清君の音頭により一同乾杯。一ト呼吸後、綺麗どころも登場。懇親会はいやが上にも盛上る。細かい事は何を云わなくても有無相通ずる。それが同期生の良さだ。とても還暦を過ぎたとは思えない若々しい、潑刺とした雰囲気。まさしく第二の青春である。

この会場「喜楽」は同期の山本



幹男(旧姓狩野)君の経営する店で、今日の為に山本夫人以下、従業員あげて、お料理は勿論、隅々まで至れりつくせりの心配り。この舞台装置あってこそ、吾々はすんなりと静中時代に戻ったのだと思う。—唯感謝—

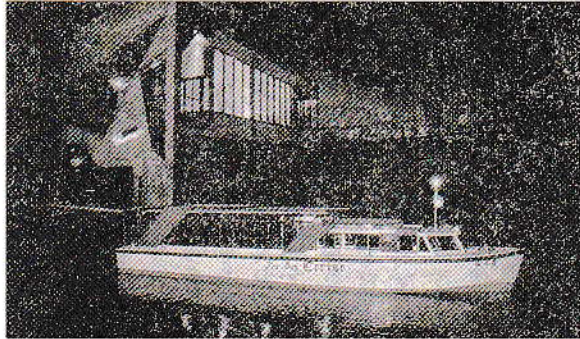
同日、卒業四十周年の記念誌「それでも青春 五十九期」が手渡された。その命名について悲しい由来がある。この本の出版を誰よりも待ち望んでいた磯貝芳行君の原稿の題名がこれで、彼は此の本を手にする事なく昨年十一月急逝した。

我々の自我確立の時期は戦前、戦中、戦後に及ぶ内外の情勢、価値観の変化、戸惑ふ事のみ多かった。而しまごう事なき青春であった。旧交を温め友情を謳歌する宴は何時果てるともなく続き、将にあつと云う「間」の時間だった。最後に森実君のリードで、肩を組み、声高らかに「岳南健児……」を歌い上げ、「それでも青春」の同期会は、次会を約して閉じられた。(奥沢 徹)

六六期

関東地区の66期同期会が十一月七日開かれた。これまで十一月の第一または第二金曜日にJ・R新橋

駅近くの小料理屋を会場に宴会方式で行ってきた。しかし、会を重ねるごとにマンネリ化は避けがたかった。「今年は趣向を変えてみよう」と田中、山下両幹事らが新方式の同期会を検討、田中氏の会社で運航している船シーバーソルジュ号を借り切つて、パーティー



方式で開催することになった。J・R田町駅近くの東京芝浦運河の棧橋につながれたソルジュ号に一行は乗船した。あいにく小雨、肌寒い天候だったが、船が貸し切りのため、できるだけ多くの参加者を、と幹事の呼びかけによくこた

え、近年にない多数の二十九人の同期生が集まり、また静岡からは同期の清水仙一郎氏がわざわざ駆けつけてくれた。さらに首都圏に住む69期、70期のご婦人たちが六人に特別参加していただいて会に花を添え、総勢三十六人のパーティーとなった。

ソルジュ号は午後七時の予定を若干遅れて棧橋を離れた。小雨のなか、高層ビルがまばゆい東京の夜景、まぶしいほど明かりをつけた停泊中の大型客船など、めったに見ることのできない光景を船内から眺めながら立食式パーティーで歓談、痛飲。ソルジュ号は隅田川河口、晴海、豊洲、お台場海浜公園などの沖合を約二時間にわたってクルージング。小雨のため窓を開けられなかっただけ食は進み、棧橋に戻ったところには何枚もの大皿に盛られた料理の山はあらかた姿を消していた。

同期生は五十代後半にさしかかり髪は薄くなった人、白髪の人、また健康をそこねて医者世話になった人など、いろいろだったが大多数は元氣はつらつ、それぞれの職場で若い者にはまだまだ負けない、と頑張っている。ソルジュ号が棧橋に近付くころ、河守氏の音頭で校歌、応援歌を高らかに斉

唱、来年の再会を約して散会した。当日の参加者、特別参加者は次の通りだった。

(敬称略・アイウエオ順)

石川隆亮、石川剣二、大坪信之、大村敏夫、加藤博司、河守輝雄、菊田聡裕、北村友幸、久保泰夫、小島清司、佐藤六登志、渋谷文蔵、菅原馨、杉本幸貞、杉山忠、田中俊男、高橋宏、辻陽一、長倉良平、早見幸雄、原常勝、馬越駿、増田高美、武藤勇、山下智康、山下裕一、山梨裕司、山本俊夫、湯浅謙(特別参加)

66期 清水仙一郎

69期 神谷貞子、原田淑子、松島玲子、松村明子

70期 有田久、藤波はるみ

(石川剣二)

シーバーソルジュ号ご利用なさりたい方は電話四五三一八六六八田中迄ご連絡下さい。

六八期

68期の卒業35周年記念総会が3月19日、静岡市のクイールボール会館で開かれた。静岡城内高当時の昭和27年の卒業だから正確にいえば36周年になるが、68期では3年ごと同期会を開くことになっており、決まりよく今年を「35周年」

とした。昨年暮れから3回程、幹事会を開き、実行委員長に就任した仁科貞雄君を中心に準備を進めた。

こういう会でいつも気になるのは出席者の数。特に今回は年度末だけに、予算との絡みもあって心配したが、当日は90余人もの参加があり、大変な盛会。ご同慶の至りだった。

総会は午後5時から伊藤晴雄副会長の開会の辞に続いて菅野寛也会長が「春分の日を前に、古里の墓参を兼ねて、遠方の方々も出席されるようこの日を選んだ。今日出席出来ることは当たり前と思うかもしれないが、その当り前が人間の幸せ。当り前と思える健康に十分気を付けて、今後も頑張ろう」と医者らしい気配りのあいさつ。

次いで山本智英君の発声で物故への黙禱が行われた。この3年間の同期の物故者は望月力、八木正稔、若山(立川)光子、前川達、中村円平、三上益弘君の以上6人。亡くなられた方々の生前を思い浮かべながら福を祈った。

事務局報告では大石博司君が、「次の次の同期会ではほとんどの仲間が還暦を迎えるので、より盛大な会を開きたい」と発言、会場からどよめきが起きた。

増井成美君の会計報告、阿部祐幸君の監査報告に続いて役員改選に移り、正副会長、幹事全員が再任された。ただ、現在同期の鈴木康男君が母校のPTA会長を務めているところから、68期と母校のパイプ役をお願いしようと、鈴木君に幹事に加わって頂くことになった。

このあと、長年68期の運営に尽力した大石博司君に感謝の印として、菅野会長から薄謝と花束が送られた。通常、この種の表彰は役目に一区切りというところだが今回は「今後とも頑張ってください」という意味が込められていた。

江崎善三郎会長の閉会の辞で総会は無事に終了した。

このあと、今回は同期の守誠君が「ユダヤ」と題して特別講演した。守君は日綿に勤める傍ら、ドキュメンタリー作家として活躍。

「華麗なる窓際族」などの著書がある。今秋には「ユダヤとダイヤモンド」という新作を出版の予定で、現在、世界を回ってユダヤ問題を取材中である。30分という短かい時間だったが、真実のユダヤを知るうえで、貴重な講演だった。

総会のあとの懇親会は華やいだ雰囲気。残念乍ら学校側は定時制

の終了式があつて出席出来なかったが、懐かしい10人の先生方が出席下さった。順不同で宇佐美雄司、大村正夫、湯原誠、坪田秀定、山下精寿、渡辺福太郎、平岩二三夫、杉山一与、北川巻平、鈴木敏朗以上の諸先生。代表して北川、山下両先生があいさつされたが、静中の先輩(48期)でもある北川先生が「母校の鉄筋5階建て校舎が今年の暮れまでには完成する」等と述べられた。

宴が進むに従い、会場の各所に丸い人の輪が出来、それぞれ昔話に花を咲かせ、大きな笑の渦が起きた。男子は年相応におつむに変化が見られ、「先生と変らない生徒」もあつたが、昔の仲間が集まると不思議なもので、青春時代に戻った気分、いつまでも談笑のタネは尽きず、文字通り春宵一刻価値千金のひとときだった。

最後は全員で校歌、応援歌の大合唱。小林孝史君の発声で万才を三唱、三年後の再会を誓い合いながら閉会。三々五々、夜の静岡の街に散って行った。(石垣祐市)

◎年会費二千元の拠出を、同封の振替用紙にてぜひお願いします。
◎会報に掲載の広告を、奮って応募してください。

回想・随感・近況など

私の書いた本

『謎解き随想』

40期 野崎 操一

既刊『心の軌跡』は編集委員が会報に適宜連載して下さる光栄に浴していますが、貴重な紙面を汚してはいないかと気がかかっております。

今春は関東同窓会副会長の上杉重吉氏(60期)が総務局におられる講談社のスタッフを煩わして『謎解き随想』を新たに自費出版しました。

内容は説明するより目次を並べた方が判り易いだろうと思いましたが、たのでそうすることにしました。

① エジプト紀行には、旅行の目的、エジプト文明、母なるナイル川、アスワン・ハイダムの功罪、アブ・シンベルのドーム、ナイルの舟、ミネラル・ウォーター、ナイルの魚、ナイルの草、エジプトの石、エジプトの砂、大神殿の造り方、石柱のエンタシス、防衛問題、イスラム教、靴屋、ツタンカーメン、地球の円周を計る、絶景

などを述べる。

② ピラミッドの傾斜角には五一度、四三度、六八度の三種があるが、これは 4π 、 3π 、 8π で $N\pi$ の一般式で表わされるので、二千五百年來の数学的謎の答を得た。

③ ピラミッドとダイヤモンドの角度には共通点があり、これがパワートにつながる。

④ 世界七不思議の一つエフェソス・アルテミス神殿と唐招提寺金堂の八本前列柱はプログレッシブ・オクタスタイルという同類型。

⑤ ピサの斜塔は計算上は一六六七年間倒れないが危険性は多い。

⑥ 韓国慶州の瞻星台は天文台ではなく星宿写真台なら判る。

⑦ 前方後円墳の体積を求める方程式を立てておくと、古墳の規模を知るのに役立つ。

⑧ 法隆寺五重塔の安定感の生れる原因は円弧法にある。

⑨ 薬師寺三重塔が凍れる音楽と賞称される秘密。

⑩ 吐月峰庭園の古図をチェックする。

⑪ 静岡で催された歴史的四大演能と舞台の話。

⑫ 黄檗山万福寺にある独湛和尚の墓を尋ねて。

⑬ 手島精一先生銅像銘記に関する逸話。

⑭ 後藤隆之助先生の手紙と教訓。

⑮ 日・月・金星が揃って西の空に没する三光西に行く現象への反響。

⑯ 行政改革についての私見。

⑰ 困っている外人の道案内。

⑱ 卓話とは何か。

⑲ 空気五則。

⑳ 八十才の展望。

昭和六十三年一月三十日初版発行。講談社出版サービスセンター。B6判、一七一頁、五七挿図、頒価二千円。ご希望の方は六〇円・四〇円切手各二十枚お送り下されば郵送いたします。著者 野崎操 一住所222横浜市港北区篠原北二一三二八。

自然への愛着

43期 北沢 夏夫

春たけなわとなり、浅間神社の桜もすぎ萌える新緑を何とはなしに想像しながら、私の頭は今、大正末期の静岡のあれこれをほうふつとさせている。

冬になると、グラウンド続きの田の中に積んである稲わらの山を背に日向で焼芋を食べながら談笑したこと、一年生夏休みはじめの水泳は袖師の砂浜であった。三保に渡るのは、浅瀬づたいに作られた板橋で、当時の清水港は、アメリカ向けみかんの輸出口であり、同時にぶどうや肉類の輸入港であった。今さわがしい「牛肉オレンド」、感無量である。

そして、今や六十年余の歳月が流れ、新幹線或は東名高速道路の車窓から見る静岡は全く一変し、当時の面影は、竜爪・久能の山波と、軍事教練を受けた安倍川の流れだけに残っている感がする。

勿論、日本全体が異状なまでに進展したのであるから、静岡だけが例外である筈はなく、静岡静高の卒業生名簿でも、私共は初めの方の頁にあることを思えば、既に私共の時代ではないことをつくづく感ぜざるを得ないのである。

さて、私はこのところ二十年にわたって、環境保全或は廃棄物処理業務に従事し、自然の大切さとその保全には、常に愛着をもって

いるものである。
瀬戸内海の波静かな船旅で、点々とする小さな島の石や土が採取され、赤肌を見せている姿は、お

よそ景色のぶちこわしであり淋しい限りである。

富士の麗峰も限られた所以外からは煙突や工場が眼前に入らずに見られるところは少なくなっている。

スウェーデンでは、我が家の外まわりの補修、ペンキの色まで、役所の許可を要することとし、自然の景観をそこなうことのないよう、自然と人間活動との調和を図っているのである。

狭い日本、人口は増加し、生産活動は旺盛で、勤勉のお陰もあって、経済大国となっていることはまことに喜ばしい限りであるが、余りにも自然を粗末にし過ぎている面はないか、この辺で一度見直して見てほしいものである。

山の木を切り過ぎれば洪水が、無理な開拓は土砂くずれを起す。都市の過度の集中は人の生命を相当に無駄におとしめていることは枚挙にいとまがない。

大気、河川、湖沼、海洋の汚染は少し油断をするとすぐ限界に達しようとし、最近ではフロンガスの問題が宇宙地球大の課題となりつつある。

この原稿を書いているときテレビは入間川にシアンが流出したことを報じている。

日本は無資源国であり、産業は主として加工産業であるから、当然のこととして、産業廃棄物の山が出来たことは明らかであり、この問題も真剣に考えなければ、自然の破壊につながるものである。

それは量質共に大気、河川、海洋、土壌等の自然吸収力をはるかに超えているからである、故に排出者自らが無公害化と減容の責任を負わない限り解決されないのであるが、昔流の慣行がいまだに完全には解消されていないのは残念なことである。

人間生活は常に自然と共にあり自然の恩恵を受けているのであるからもっとも自然を愛し、自然を大切にし、自然と握手をして調和を図りながら、文明と文化を享受することができれば、実に幸福が増すものと考ええる。

そして、よい自然を将来に残すことが現世に生を受けるものの大事な責任である。

終りに、夏の甲子園大会優勝旗返還の際、静岡のベナントが見えないが注目して見ているものであるが、母校の限らない隆昌を祈ってペンをおく。
駄文多謝

腹切の記

47期 今関 智吉

例年の関東四七回の六十三新年会には出席十三名。談、偶々「切腹」に及ぶ。ホヤホヤは志田、大村、古傷は中村等の諸兄。いずれも見事な傷跡である。数えると出席者の半数が歴ならぬ腹に傷持つ身。当日欠席だったが、片山氏も真新らしく、鳴谷博士も二度に亘る大手術に耐えてリハビリ中。そこで、夫々病因は異なるが、傷痕の逞ましい方々の中で、新人の大村氏、古傷の中村氏に、又目下予備軍で腹を擦っている杉江映画監督に夫々一文を誌してもらい、参考とする。

今年一月の関東四七回の席で出席した諸君の約半数が「切腹」に類する病気を経験していることを知った。「ああ、皆七十の年を越えたのだなあ」と思った。益々健康に氣をつけて、来年一月も元気で会おう。

記

大村 三郎

私は日赤医療センターで六ヶ月毎に胃腸の検査を受けていた。一昨六十一一年夏、腸のS字結腸に大きなポリープがあることが判り、昨六十二年二月、内視鏡を入れてそれを除去した。同じ年の六月に診て貰うと同じ所に又ポリープが発生しており、精査の結果、悪性のもので診断された。七月に入って同部分を切開手術によって取り除いた。

折から甲子園野球大会の時期で

×

×

杉江 敏男

在京四七回の新年会席上、開腹手術を受けた者が五名と聞いてびっくりした。見事な傷跡を表示し合って、そのミミズっぱれの大きさを自慢するのも、手術後の経過が順調な回復をしているからである。まずは腹切りめでたしめでたしである。小生も大腸ポリープがあり、七年前に除去手術を受けた。開腹せず肛門から大腸スコープを入れ取り去った。以来、年一回検査してポリープが大きくなったら除去することになっている。腹

切り予備軍として「待機」している次第である。

大腸、直腸のポリプ発見は便に血液が付着しているのを発見することである。これは排便の時便をよく見ること。それには和式トイレが最適。最近息子と同居することとなり和式トイレを洋式トイレに変えたので己が分身をつくづく眺めることが出来なくなった。時々逆向きに腰かけて眺めるが、水没が早く困っている。

おつて、去る四月十九日に大腸検査。ポリプ二ヶを取り無事パス。これで七回目。毎年四月に定期的に内視鏡を入れられる。便秘だけが悩みの種。でも元気で吞んでいる。

× × 中村 豊夫
題して「腹切りのんびり男の一生」手術歴三回、十年前胃の手術が最後です。手術の怖さは余り感じなかった。

中肉中背、頭健とまでは云えないが、中学ではスポーツには出しやばりの方で弓道部が正、テニス卓球が臨時雇、野球にも関係したし、ラグビーは寄せ集めで部を創立。水泳(ボロ)、サッカーは一軍の練習台になったりで、校長には文句の言われ通しであった。

最近の生活回廊は、一日ビール二分の一本、日本酒三合、三六五日休みなし。草むしり、テニス、旅行とマルビの枠内でどうやら楽しんで居ます。

闘病、脅かし談を書けとのことでしたが、かけ離れてしまった。最近の政治屋、役人共ではよい世の中は望めないで怒らず、のんびり暮らすのが健康を保つには一番です。現在、心配して腹を擦っている杉江君以外の方々よ、お医者さんに任せて手術をしても、一度天国地獄の出入口を見物して来れば必ず治りますので、まだまだこれからの余生をすっきり楽しみましょう。

息子の結婚披露宴

50期 永田

激

四月十八日(月)十八時からレストラン・プラザで開かれ、浅賀、梅村、大庭左、大庭富、梶原、川森、田中、富田、永田、山田、静岡から小泉隆君加わり、本年に入り平口、小泉英君死去、その他数名入院中の由、健康談義に華が咲き、二十時校歌を歌って散会。次回は十月十七日(月)同時同所です。

息子の結婚披露宴
或は場ちがいであるかもしれないませんが、経過報告を兼ねて七十才

にして息子に教えられたお話をさせて戴きます。

(1) 昨年五月初め博美さんのお父上の天田先生から、お話ししたいことがあるというので、東京駅の「銀の鈴」で落ち合いました。天田先生とは基仇です。で、つきり基を打つ話だと勝手読みをしていましたら、「実は……」ということ、博美さんを容一の嫁にどうかというお話でした。書類を拝見すると博美さんの方が二程程背が高い。

「永田先生、それは駄目です、残念です」という天田先生のご意見でしたが、ともかく息子の意見を聞いてみますと、書類をお預りして帰りました。息子に見せましたところ「背丈ではない。問題は中味だ」と。こうしてこの縁が始まりました。

(2) 私は商売柄若干おしやべりですが、容一はどちらかというと寡黙で、年令の差もあり、この頃何を考えているのかさっぱり分かりません。家内の方が酒の相手をし、専らそこから僅かな情報を得ていました。博美さんとお話の進行状況は彼女の母上とおして天田先生からお聞きする次第でした。秋になって、双方親友を交えて、四人で歓談したこと、「僕は友人を大切にしている。家庭を持って

もそれに支障があつては困る。だから友人に見てもらった」ことが伝わり、息子仲々やるわいと思いました。

(3) おおむねお話がまとまってきた頃「どういふところが気に入ったのか」と質しますと「おおらかで、少し抜けたところがあるから気が安まる。馬鹿じゃ困るが、頭はいいんだ」ということでした。

◎これから二人に望みたいこと
誰もが世界の中で一番大切なものは自分だと思っています。だがそれを乗り越えて他人を自分以上に愛するなんて、こんな素晴らしいことはありません。然し、何事であれ、よい結果というものは、それに注いだ情熱の密度とそれに費した時間の長さとの積に正比例するものでありますし、更にそれを手に入れる過程には幾多の障害が横たわっているものであります。

「歩み来る者には『やすらぎ』を。去り行く者には『幸せ』を」と刻まれたギリシャ神殿の御神体は「Nature never jump」(自然は飛躍せず)だそうであります。立派な愛を作り上げるには一歩一歩ふみしめて前進する努力と忍耐が必要。山登りにたとえれば、二人は今、ベースキャンプを張るところです。二人の行手には、断崖、クレバスがあり、嵐の日もあるでしょう。本日ご参加頂きました皆様、どうか今後共折に触れ二人を激励してやって下さい。皆様の絶大なご協力を得まして、こんなに素晴らしい披露宴が持てましたことを両家を代表して心から厚く御礼申し上げます。本日は大変ありがとうございました。

あ、神風特別攻撃隊 故金子保君に捧ぐ

55期 野中 篤

金子君懐かしいね。君は祖国の急を救うべく神風特別攻撃隊指揮官として、沖縄に出撃、昭和二十一年四月六日、南西諸島附近の洋上に於て、敵戦艦目掛けて壮烈に特攻散華した。時に君は二十四才、現役時海軍中尉、特攻戦死後、二階級特進少佐となった。

特攻は成否不明となっているが、僕は君が愛護諸共見事敵艦に突入せしものと堅く信じている。優秀で純真過ぎる君なるが故、かかる壮烈な戦死を遂げられし事は誠に痛恨の極みである。

戦時中、数多の尊い命が犠牲となり、戦争末期には戦況苛烈を極め、二千人の純真な若者が、祖国の急を救うべく特攻で南の海を血に染め、海の藻屑と消えた。

其の遺骨は海底深く沈んで、回収出来ないが、それは犠牲となつた君達の忠誠の魂魄が、そのまま其処にある事を意味する。

国難を救う為、散華した君達の犠牲の精神は、永久に其処に生きている。

君は静岡城内尋常高等小学校、静岡中学、浜松高等工業を卒業後、名古屋帝国大学在学中、昭和十八年九月、第十三期海軍予備学生として入隊し、後に右の如く散華された。

当時工学部は在学中の入隊及び特攻共、猶予があつたが、君は自ら其の志願をして、華と散つた。之がため僕は君の散華に一層敬弔の念を禁じ得ない。

だが僕は特攻を決して、勇敢なものとして讃えるのではない。

寧ろ其の反対で、君達の犠牲は戦争終結の一因となり、現代の平和繁栄の礎となつた。かかる平和の先駆者としての特攻を心から畏敬するものである。

そして僕自身、軍隊で三回も命拾いをしただけに、君の特攻戦死に対して、他の方々以上に深い関心があるのだ。

また、同級の方々は人望の厚かつた君の死を大変惜しみながら、命日その他詳しい事は誰も知らない。

い。君が僕に自分の最期を皆様に伝えてくれと語りかけて来る声が聞える様な気がして、何等かの形で君の供養をし度いと戦後思い続けて来たので、ここに君との思い出の一端を記した。

一部の方からは、戦後四十三年も経った今更、何故かかる追悼文を書くのかとの御批判もいたしたが、逆に四十余年も経った今だからこそ、君にこの文を書く意味があるわけであり、今になつても更に僕を含め君の死を惜しむ人々の多い事を知っていただき度いのである。

そして現代の我國の平和は、全国戦没者三百十万人の尊い人柱と、その御遺族及びその他の方々のこの上ない悲嘆の上に築かれたという事を、兎もすると人々は四十余年の歳月の流れと共に忘れかけている。自分達の人柱の上に築かれた平和であるとの思いを皆様に新たにしたいと君が語りかけて来る声が聞えるような気がする為、敢て今だからこそこの手紙を書いたのである。

軍隊で三回も命拾いをした僕は現在ここに友の追悼文を書いて自分の居る事が不思議にさえ思われ、一つ運命が違えば、君が僕の追悼文を書いてくれる事も充分

あり得る事と思うと運命とは誠に分らないものである。

またこれを書いた別の訳としては、後に記す理由もあるし、君に逢う日がかなり近くなつた為という事もある。

当時幼い頃より國の為に尽す事こそ最高の美德だと教えられた我々の年代の者に、戦争の是非等考える余裕はなかつた。

火事は勢いを増し紅蓮の炎は目前に迫つていたからね。自分が身を犠牲にして消さなければ、愛する家族や同胞は火に包まれてしまふのだ。

君は身を挺して火事を消す為に炎の中に身を投じた。君達の尊い犠牲があつたからこそ火は消えたのだ。

特攻最後の別れの水盃を交はす君の姿、次々に飛立つ特攻機、日の丸の鉢巻をきりりとして、愛機に乗って永久に帰らぬ旅路に飛立つ君を、右手を上げ腕をちぎれんばかりに回して、何時迄も見送る僚友や部下達、如何に心身共に鍛えられた君であっても、特攻はさぞ悲壮な苦しいものであつたろうと、考えるだに身の引締る思いがし、其の時の君の姿を想像し其の尊い気持を思う度に今も胸が痛み、溢るる涙を抑える事が出来ない。

い。

思い起せば静岡城内尋常高等小

学校(通称尋高と言つた)四年生の君と僕は或る秋の日、清水山(谷津山)に登つた。(当時の受持は鈴木しま先生で、先日五十五年ぶりで電話し、お互いに懐かしうて、延べ二時間以上もお話をしましたが、これも金子君の御霊の引合せによるものと思ひます)

君は僕を誘つて山の上にあるアンテナの一番上の船形の所目ざして登り出した。一〇〇米の山の上にある為一五〇米の塔に登るのと同じであり、流石腕白小僧では引をとならない積りだつた僕も怖くて内心震えていた。当時、君と僕は「かねさん」「あつちゃん」と呼合つていたね。

上迄登つた君の声がした。「あつちゃん、早く登つて来いよ」「かねさん、いい景色だなあ。僕は途中で止つて眺めているんだよ」と言つたが、実は足が凍んで仲々登れなかつたのだ。

安定感の悪い塔の上から見るとあり、一五〇米の上から見ると上は恐怖の高さである。やつと思いで上迄登つたが、この時の怖さは君の思い出と共に深く僕の胸の裡に残っている。

そして此の思い出多い清水山の

下に、当時の安西の招魂社が移転して現在の護國神社がある。

遺書、軍帽、勲章、軍刀等に囲まれた君の遺影(以上の遺影各遺品、御母上故金子静井様御提出)が何時もこの清水山のアンテナを当時を懐かしむかの如く仰いでいる事も誠に奇しき因縁である。

また、駿機山の地獄谷(普通は登り降り不可能な険しい崖道)を何回も登り降りしたもの、何時も君が先に立ち小学校の頃から君の勇氣ある行動には僕は常に敬服していた。

また小中学校とも学業も運動も其の他凡ての点に於いて君は僕より常に一段上であつた。君と小魚をとつた外堀、対象的に満々と青い水をたたえた中堀、栄枯盛衰、星霜幾年月を偲はせる駿府城跡の苔むした石垣、君と一緒に蟬をとつた小学校の土手の松の大木、今は亡き恩師白井安彦先生、鈴木秀依先生、其の他の諸先生及び懐かしい友の顔等々が走馬灯のように次々と浮んで来る。

また中学五年生の頃の君は、少年としては悟り切つたものを感じさせられたのは唯僕だけではなかつたと思う。

特攻で命捧げし かの友の 臉に浮ぶ 若き日の君

安らかに眠れと思う 国の為
命捧げし 君や尊し
静岡の岳南健児友がきと

共に学びし 頃や懐かし
思い出せば、静中時代、教練や
体操の時間に校庭から眺める景色
―西に浅間山が見え、一本松があ
り、更に浅間山が北に伸びて竜爪
山が聳え、其の右に霊峰富士を仰
ぐ景色は、五十年以上経った今も
はつきりと脳裡に刻みつけられて
いる。

そして校庭から見ると此の景色は
静岡中学校を卒業した方々全部が
静岡を思い出した時、真先に眼
に浮ぶ景色であり自分の青春時代
の思い出の象徴そのものである。

さて、僕が卒業以来中学の出身
校を聞かれ静中と答えた時「静岡
中学ですか、現在の静岡高校です
ね。あそこは静岡県では一番良い
学校ですね」と、学生時代には殆
ど意識していなかった言葉を他の
方から数回聞き、今更の如く、中
学校百拾年、小学校百零年の伝統
ある両校を卒業した事に誇を感じ
大変有難く思っている。

この伝統は勿論、諸先生、諸先
輩、其の他第一線にて各界に活躍
された同窓諸氏の築き上げて来ら
れたものである事は言うまでもな
いが、命を捧げて平和を克ち取っ

てくれた君達の蔭の力をも決して
忘れてはならないものと思いつつ
この便りを書いている。

さて、中学五年生の頃の君は、
僕の実の兄渡辺高（静中卒四十八
期）と数多くの点で全く同じ道を
辿った。（僕は母方の祖父の家を
継いだため野中となった）

兄と同じ道とは、級長で競技部
員で中距離選手であったし、応援
団長、委員長等である。

時は昭和七年四月、場面は静岡
中学校運動会々場に溯る。小学校
四年の僕達二人は憧れの静中の運
動会を見に行っていたね。

攻城戦が終了最後の分列行進で
剣を抜いて颯爽と指揮をとる兄を
君は大変褒めてくれ、兄に憧れて
いるとも言ってくれた。

そして君の死後四十余年経った
今も、兄と同じ道を辿った君の事
を、人ごととは思えず異常な程君
の戦死に関心を示すのも実にその
ためである。その兄も十六年前、
五十七才で他界した。

さて、去年七月、叔母（叔父、
渡辺修、関西同窓会副会長、静中
四十五期、京大卒の妻）の亡くな
った時、静岡へ行った。

懐かしき帰らぬ過去を亡き人を
偲びつつ来し 静岡の地に
とこしえに眠れと思う亡き人よ

この美しきふるさとの地に
亡き人―それは亡くなられし、
城内小学校及び静中の恩師の方々
特に和歌の師、西田重雄先生始め
小中学校共同期の内藤秀雄君、鼠
入敏夫、高須秀夫、堀川慎一郎、
淵井清、増田茂美の諸君、其の他
の級友達、また大正の終りから昭
和五年迄、静中の教頭を勤めた実
の父、渡辺弘（通称ラッキョー又
はラツアン）や、永年不二高女
（現藤葉高女）の教師を勤めた実の
母、渡辺しん其の他、叔父、叔母
等親しい人々の死に遇うのは、此
上なく悲しい事だ。

だが、かねさんや内藤秀雄君と
毎日一緒に通った外堀の道で、昔
と変らぬ昔むした石垣を眺めなが
ら其の死に対する自らの慰めの言
葉を考えた。

―数年或いは数十年の多少の早
い遅いの差はあれ、長い宇宙の歴
史から見れば瞬きする程のほんの
僅かな時間の差であらう。

人間何れは皆死ぬのだ。何等特
別変った事ではないと。

そして弟さん金子迪氏（静中卒
六十三期）を訪ねてお詣りをし度
いと思ったが、金子氏の御都合が
悪く之は果せなかった。しかし電
話にて御遺族の御声を聞き、僕の
胸の裡を伝える事が出来て大変嬉

しく、永年の心のつかえの一端が
晴れた思いがした。

私事ながら現在僕は家内と二人
平凡ではあるが平和な日々を過し
ている。退職後の趣味として庭に
池をつくり、四十種から七十五種
の錦鯉五十匹近くを飼い、その世
話をすると息子夫婦や孫達が訪
ねて来るのを何よりの楽しみとし
ている。

鯉に餌を掌に乗せて与えると、
指迄舐める程馴れて居り、本当に
可愛らしいものである。

（同窓の方で錦鯉に興味をお持ち
の方は、誠に恐縮ながら御電話
下され度く、拙宅に来て鯉を見て
いただき、飼育法の注意点など御
指導いただければ誠に幸いです）

かかる平凡ながら平和な日々を
送れるのも君達の尊い犠牲の上に
ある事を思い、毎日感謝の日々を
過している。

我々の年代の者が若い方々に残
酷悲惨極りなき戦争を語り継ぎ、
再びかかる悲劇の起らぬようにす
る事こそ、犠牲となられた方々へ
の真の供養である。

最後に母校城内尋常高等小学校
及び静岡中学校の亡くなられた恩
師と、戦争で犠牲となられた方々
の御冥福を心からお祈り申し上げ
る次第である。

君との想い出は走馬灯のように
次々と尽きないが、「かねさん、
安らかに眠ってくれ」

君が壮烈に散華した沖繩の海は
今はあく迄碧く平和そのものであ
り、特攻機の爆音に代って旅客機
の轟音が時々快く響いている。

遺書の中の辞世の歌にある如
く、君が死を賭して願った我国の
平和は空前の繁栄を見せ、世界に
冠たる事をここに君に強く伝え
たい。

唯々今はご冥福を祈るのみだ。
僕も、何れその中には君に逢いに
行く。その時はお互いに懐かしさ
が一杯で、何から話していいか分
らず積る話が尽きないだろうね。

「かねさんさようなら」
去りし日の静岡時代かの友と
共に学びし頃や懐かしき
安らかに眠れと思う懐かしき
友のえがおの 思い出さる

特攻で平和願って戦死せし
君や尊し 靖国の神
遺書（原文のまま）
御両親様

―二十有余年の並々ならぬ御養
育、感謝感激に堪えず、厚く御礼
申し上げます。不肖の身にて、家系
を継ぎ得ずして征きます不孝の罪
何卒御容赦下さい。幼少より我儘
のみ申しましたが、自分の信じた

道を真直ぐに進み得た私は本当に幸運児でした。

愈々大君の御櫓として、最後の御奉公を致す時が参りました。保は喜んで散って行きます。皇国の弥栄を信じて、神州護持の礎たる事を誓います。

軍人として以上の名譽はありません。最後の瞬間迄、絶対慎重を期し、重任を果たす覚悟です。

御両親様の御長寿を神かけて御祈り申し上げます。

姉妹弟 御一統様

弟として又兄として、何一つ尽し得て征く身、皆さんどうぞ許して下さい。私なき後は年老いたる父母様に充分孝養を尽くし、一致協力して、金子家の家運を挙げて下さい。大空の一角から皆さんの御成功を常に祈って居ります。

親戚の皆様、恩師、航空隊に於ける諸教官

御厚情御薫陶に対し、心から御礼申し上げます。御高恩の万一にも報い得ずして征く事、何卒御許し下さい。必死必中御期待にそう決心で居ります。(中略)

故郷の皆様にも、呉々も宜敷くお伝え下さい。御願ひ致します。

(中略)

遺髪と写真の一部同封致しますから御受納下さい。

我いのち君に捧げて今ぞ散る
すめらみくにの弥栄信じて

海軍中尉 金子 保

特攻出撃を前にして

御両親様、姉妹弟、御一統様

(遺書は右以外、同時に突入する部下の方々の階級氏名年令及び親御様へ散華の連絡願む旨の記載あり、亦自分の遺品及び身辺整理等についての詳細なる依頼事項あり、原文は右の二倍以上に及び遺髪入の封書の宛先は、御父上、故金子忠雄様、御一統様宛となつてゐる)

君達が命を賭けて克ち取つてくれた現代の平和を感謝しつつ、僕は君の御冥福を祈っている。

特攻の友が残せし遺書を読み

言葉無くして涙あふるる

友の遺書見慣れし文字も

そのまゝに

胸の痛みてしばしどうこく

静岡人雑感

60期 里見元一郎

先日、堤崇君から『原稿依頼』があり、忙しそうな彼についての同情したのが連の尽きの始まりで、しかも優柔不断の性格も災いしてここに一文を草する羽目になった。最近静岡の高校や中学のことがよく話題になった。概して芳しく

無いことばかりで、受験資格を事前に制限したとか男女の差を付けたとか、卒業アルバムに写真をどうのこうのと、何やらうるさい。一般に静岡県のことは新聞種になるのが珍しい。だからといって出るのを喜んでゐるわけではないが、概して静岡は話題性に乏しい。いつかの寸又峽の事件はその意味で鮮烈だった。何年前の事か忘れたが、事件の印象はまだ強烈に残っている。何時も春眠曉を覚えずの風潮に馴染んでゐる静岡人として何やら新聞種になることは刺激になつて良い面もあるが、今度の場合は理不尽にミサイルの連続攻撃を受けたようなものだ。しかし、何故に天下の大新聞が穏やかで平和な静岡を些細なことで集中攻撃するのか。静岡には金九級の大政治家の庇護の傘が無いからだろうか。いやいやそんなものは無い方がよい。やっぱり細かいことに気を使ひすぎる静岡人の悪い癖で細工の仕過ぎだったのか。

話は違ひが大体静岡と山梨は昔から仲が良くなかつた。富士山の頂上の所有権を争つた昔のことはさて置くと、野球の山梨大会では静岡代表チームの圧勝が半永久的に続き、山梨の人はこれを根にもつてゐた。僕の大学に来

た山梨県出身の可愛らしい女子学生の口から『昔は静岡のチームに邪魔されて甲子園に出られなかつた』などと聞くと、僕は大きくうなづいて、嘗て鎧袖一触で相手を相手としなかつた栄光の日々を回顧して悦に入つたりしたが、今はそうはいなくなつた。野球でも山梨が強くなり、静岡は弱い。郷土の英雄今川義元は優雅だが弱かつたという印象だ。反対に山梨は嵐のような信玄ブームに沸いてゐる。温泉も結構湧き出るし、河口湖、山中湖の一大リゾート地域は目覚ましい発展ぶりだし、葡萄酒もよい。残念ながら蜜柑からは酒はできない。嘗ては山梨から豊かな静岡に出稼ぎに来て、蜜柑やお茶を摘み、裕福な海岸沿いの家庭を見て帰り、静岡からは嫁を貰わぬ、貰えば家が潰れる、と言つてゐた山梨人が、今や大いに氣勢が挙がつて、強く豊かである。おおかである。きつと生徒に細かいことは言わないのだから。自由に育ててゐるのだから。だから問題は起つても問題にならない。ところが静岡はどうだ。気弱で細か過ぎる欠点がある。豊かであれば見せない欠点も追ひ込まれると暴露される。女子の受験を認めないのは静岡の人が女性の力を自ら過小評価しているからではないか。静岡の女性は明るく穏やかで頭が良い。高校に入れば純情型の男子を引っ張って進歩させてくれるだろう。どしどし門戸は開放すべきだ。見たくない人間の姿を花の精に換えるのは魔法使のやることで、人間業を越えている。成長の過程には色々のことがあるよ、と鷹揚に構える分け知りの人間になりたいものである。もっと名門県らしく悠々として、静岡独特のゆつたりした人物を育てて欲しい。負けるが勝ちとは良く言つた。しなやかな弱さをむしろ良しとする哲学もある。その点でやたら嵩にかかつて弱さにつけ込む大新聞と派手好きの論理で押す東京ジャーナリズムは野蛮である。静岡は優雅で優しいところだ。細工は捨て気さくでゆつたり生きる気風を誇りにしよう。

それにしても僕が在学した頃の静岡の野球部は弱かつた。対静岡戦では10-1くらいで負けた。しかし、投手の八百兄弟の少し硬いが生真面目な投球動作は思ひ出しでも懐かし、美しかった。武器庫の前のグラウンドで練習する姿は絵のようだった。負けても気品のあるような人がよい。静岡での教育には戦時中ゆえ悲しいこともあ

ったが、苦しみを通して色々得るところが多かった。『印高』というスローガンも忘れがたい。どんなにじじめられても、いつも高きを仰ぐことが人間の生きる気骨を教えてくれる。最近はいじめを槍玉に挙げているが、人間はいじめられて、それを薬にして育つものではないだろうか。

そこへ行くと……いやもう止めよう。アメリカが日本をいじめていると言っても止めてくれる教師も大新聞もない。優しく生き延びる強さを持つしかない。静岡人の特性は明日の世界の中で地味ながら光を放ち、しなやかな気立ての良さで際立つと信じた。

人生一区切

70期 中村 竜二

城内の兵舎の跡に入学し、螢の光りは新築モダン新校舎。あれから既に三十と有る年。あの懐かしい学び舎も、歳経り傷み老朽化、取り壊されて跡地には、またまた生まれる新校舎、ふと気が付くと我が身自身、気持ちには若いつもりだが、人生五十年既に過ぎ、たまたまに出会う同級生、顔形は変わらねど、顔に刻まれる人生の苦勞。人ごとでない我が身を見れば、額あがり髪薄く、白髪混じりのゴマ塩

頭。腹見にくく突き出して、とても見られたさまでない。

城内から静岡と、名前が変わった高校を、出てから寒い北国に遊学し、勤めた先が河豚と雲丹の山口県下関。給料が安い、安いと云いながら、一皿五十円の河豚さしを肴に酒を食らいあげ、当たった毒が転動毒。北は南部藩八戸から、花のお江戸を中継ぎに、横浜、神戸、阿波の徳島、無法松の小倉まで、指折り教えて十と二回の家移り。女房子供には嫌がられ、家具はガタガタ、歯もガタガタ。

最後の勤めは何の因果か下関に出入り。楽しみの久方振りの河豚さしも、とても高く、そうしばしば口には入らず、お陰様、毒に当たることなく、役人生活を無事卒業。

思いおこせば勤めの始め、日本の景気は昇り竜。島国日本の生きる道、加工貿易の花盛り。加工貿易の中心は、港と臨海工業地帯。運良く勤めた運輸省港湾局。日本の海のおちこちで、海底掘って航路を作り、出てきた土砂で埋め立ての一举両得。こうして出来た臨海工業用地。鉄鋼・石油などなどの大型工業は増産に次ぐ増産。工場は拡張に次ぐ拡張。原料輸送の貨物船、あれよあれよと云う

うちに、出てきたのが甲板で野球ができる五十万噸の化物。製品輸送の貨物船。現われ出でたる大型の高効率のコンテナ船。扱う貨物は従来の十倍。今までの埠頭では、狭くてたちまちコンテナの山。必要な埠頭の幅は尾崎のドライビングでもかなわない三百米。これでは今迄の港湾計画では、小さ過ぎてどうにもならない。北は北海道稚内、南は沖縄那覇までの大きい事は良い事と、日本国中あちこちの港湾計画改訂作業。日夜作業の連続で、面白かったが忙しく、そこは若さでなんとか凌ぐ。

作った計画ひきさげて、大きい港を作ろうと勇躍出掛けた八戸に着いた途端に、オイルショック。それ以来、港湾工事の得意先重工、壮大産業は、一日と落ち目の日々。かてて加えて公害や環境破壊の犯人と、あちらで叩かれこちらで突かれ、港湾屋受難の時代。

ようやく世の中治まって、本四架橋も始まって、ポートアイランドも完成し、二度目の勤めの神戸では、世界で始めての洋上空港・関西空港をスタートさせ、お疲れさんと最後の勤めは下関。

親分お帰んなさい、と、昔馴染みの歓迎に、良い気になってふと気が付いた。慣れてしまった官舎暮らし。迎えが来れば、親子ともども路頭に迷う。こりや大変家がいる。慌てて探せど金はなし。ようやく見つけた兎小屋。これでやれやれ一安心。子分ども、しっかり仕事をしろやと尻叩き役。

あら懐かしや、巡り合いたる同級のS氏ともども単身の、身軽さこれを幸いと、酒の肴は同級生の噂話。真空掃除機の化物で、じわりと吸い取る水俣水銀ヘドロ。ようやく行く行き掛けたら、はい、永い間ご苦労さん。

二度目の勤めは、十手取り縄投げ銭の銭形親分組張りの、八丁堀の一角のビルに間借り、日本海洋開発建設協会。海洋工事にたずさわる建設業者の集まりで、やれウォーターフロントの開発だ、やれ沖合人工島の建設だ、などなど高まる議論のお世話役。

堅い袷脱ぎ捨てて、世間の目をも気兼ね無く、何より嬉しい自由時間の増加。これまで出来なかったウイークデーのゴルフ。やれ嬉しやと励めども、さっぱりスコアは纏らず。しからばと、マイク片手にカラオケ歌い、あまりの下手さに相客逃げ出す。家に帰れば下宿の小父さん。女房子供の笑顔に会うは、給料小遣い渡す時だけ。後は邪魔物粗大ゴミ。狭い我が家の片隅で手酌で飲んでうたた寝すれば、夢にでてくる、密かに思った可愛い子、悪たれ餓鬼のニキビ面。たまには会いたい話したい。暑い夏の甲子園、寄付金集めはしたもの、同期会は開かれず、これぞまさしく幹事の怠慢。ごめんなさい。幹事充分反省し。今年はず同期会、落葉の頃に開くつもり。是非是非皆様、お誘い合わせて出てきてちょうよ。

さぼってばかりの幹事会。欠席裁判判決で、押し付けられた原稿用紙。作文不可で選んだ土方。今更ボヤイテモもう遅い。酒の助けを借りながら、升目を埋めた悪文駄作。お見苦しくて申し訳ない。追記 本稿の脱稿まじか長倉良松君が亡くなりました。幹事で相談し『静岡関東同期会有志一同』として供花を致しました。長倉君のご冥福を心より祈り申しあげます。

江の島会

第41回「江の島会」ご案内

- 一、日時 八月二十八日(日)正午(十一時より受付)
- 一、場所 江の島恵比寿屋旅館(35期永野清氏経営)
- 一、会費 七千円、女性六千円

(記念写真代を含む)

年会費不要

一、連絡先 江の島会事務局

〇四五(301)五五四五

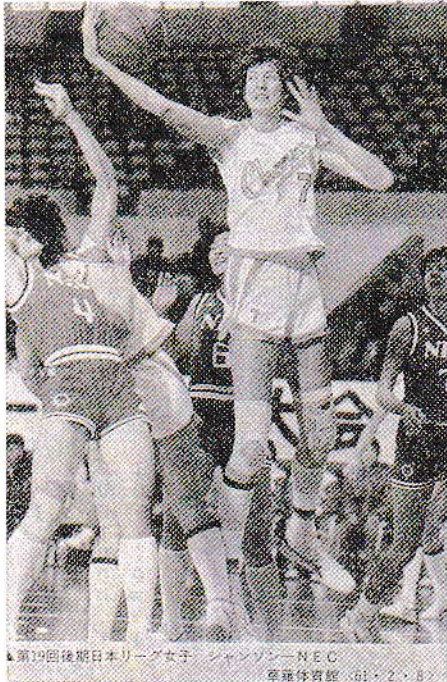
(59期奥沢 勝山塗装内)

一、追記

今回は恵比寿屋旅館
改築工事のため開催
日を変更しました。

静岡だより

アン・ドノパンの手記

チャンソン化粧品バスケットチ
ームのセンタープレーヤーのアン
・ドノパン204cmの名前を新聞
のスポーツ欄でご覧になった方も
いると思う。アン・ドノパンはチャンソン化
粧品社長の川村修氏(77期)が、
昭和58年のNCAA全米大学女子
バスケットボール選手権観戦中に見出し、スカウトした全米女子
ナンバーワンセンターで、チャン
ソンの全日本選手権4連勝の原動
力になった選手である。彼女はなかなかの美人で、県内
のチビッ子ファンの人気をいつも
独占していたが、この春5年間プ
レーしてきたチャンソンのユニフ
ォームをぬぎ、ソウル五輪をめざ
す米国ナショナルチームに帰って
いった。第19回後期日本リーグ女子 バスケットボール選手権大会
チャンソン化粧品バスケットボール部

そんな彼女が、離日するにあたり静岡県の小中学生バスケット選手に一通のメッセージを残していたが、なかなか含蓄深いので、この紙面をお借りし、紹介したいと思う。

「バスケットを私は長い間愛してきました。小さい頃から7人の兄弟といっしょになってゲームに興じ、楽しんできましたが、成長するにつれ、私は一つの基本的なスポーツ観を信じるようになってきました。それは『バスケットはゲームであり、何よりもまず享受するためのものである』ということです。

長い間の選手生活で私は苦痛に耐え、多くのものを犠牲にしてきましたが、そんな大変な時でさえ私はバスケットへの愛を失いませませんでした。そして、バスケットは私に貴重な教訓として、献身や自信、根気強さといった言葉の真の意義を教えてくれました。私はグッドプレーヤーになろうと自分の多くをバスケットに献げてきましたが、逆にバスケットから多くのものを得ました。それは努力と汗の甲斐あるすばらしい経験でした。

私を支えてくれた日本の人達に感謝します。私はここ日本で私の

バスケットをプレーできたことをとても愛しています」

(86期 殿岡裕規)

逆転で二年連続勝利

初のOB戦も開催

静岡対静岡野球部定期戦

今年で戦後三十回目という節目にあたる静岡対静岡野球部定期戦が、五月三日の憲法記念日に青空の広がる静岡草薙球場で行われ、逆転また逆転というスリリングな試合展開の末、静岡が六―四で接戦をものにし、二年連続の勝利を飾った。

昭和五年のあの天覧試合を記念して、翌年から始まった静岡対静岡(当時は静岡対静岡)野球部定期戦は、戦前は昭和十七年まで八回行われ、第二次大戦で一時的に中断されたものの、両校生徒やOB、熱狂的なファンの要望により、昭和三十一年に再開された。今年は戦後の三十回目にあたり、ここ数年にわたり検討されて来たOB戦も実現の運びとなった。

定期戦に先立ちOB戦が午前十時にプレイボール。検討はされて来ていたものの、開催が正式に決まったのが今年の四月に入ってからということで、日頃の運動不足に加えて満足な練習もできずに、

平均年齢約四十歳というかつての甲子園球児たちも、息を切らしながらの奮戦と相成った。

初めての試みということで、年齢構成なども事前に申し合わせがあり、二十代四人・三十代三人・四十代以上二人とした。ただし、「現役なみの体力の若手に本気でほうられて、勘のぶったロートルがけがでもしたら困る」という声もあり、ピッチャーだけは三十代以上という制限付きとなった。

メンバーは、静岡が三十一人、静岡商が二十七人の総勢五十八人。登録メンバー全員が出場した。静岡の監督は宗野徳太郎氏(OB会長115歳)で、出場した三十一人の内、甲子園経験者は二十三人を数えた。

試合の方は、静岡が昭和三十五年に夏の甲子園で準優勝した時の黄金バッテリー石田勝広さん・渡辺尚さんの二人を送り込んだが、二塁打二本などで二点をとられ、四回に船川誠現野球部監督のタイムリーで一点を返したものの反撃はここのまで。五回には静岡OBの戸塚隆さん(現池新田高校野球部監督114歳)のライトスタンドへのホームランでとどめをさされた。

夏の甲子園大会県予選を控えて

真剣そのものの現役高校球児に比べると、OBの方は親睦ムードで余裕たっぷり。「三十回とか四十回とかの区切りの年だけでなく、

また来年もやりたいな」と互いの健闘を讃え合っていた。

静高OB 0001000
静商OB 1011100×
4 1



静高―静商定期戦 8回表の静高の攻撃。1死1・3塁の好機に天野がセンター前にはじき返して、3塁ランナーの岩崎を迎え入れて逆転する。

(写真提供・静岡新聞社)

一方、現役の定期戦は、初回に山口のレフトの頭を越す二塁打や村松のセンター前ヒットなどで静高が三点を先取したが、追加点がなかなか取れず、中盤に静商の猛追に遭い、一時三―四と逆転された。

しかし、八回に一死満塁のチャンスを作り、天野の三遊間ヒットなどで三点を入れ再逆転。そのまま押し切った。

草薙球場には、ちょっとしたプロ野球なみの約一万一千人のファンが詰めかけ、野球王国静岡の伝統の一戦に、大きな声援を送っていた。

通算対戦成績は静岡の十九勝十一敗(戦前の対戦を含めると、二十一勝十七敗)となった。

静岡 300000030
静商 000020200
4 6

(高) 梶山―高柳、岩崎

(商) 桑久保―池田

◇二塁打 山口2(高)

小林、鈴木貴(商)

(85期 吉水 広)

(編集部)

静岡の皆さんのご協力に感謝しています。

米号は、また面白いニュースを提供して下さいと光木氏より連絡がありました。期待しています。

「こえ」

気軽に筆を執ってお送りください

42 菊地 謙雄

皆様におめにかかりたいのはやまやまですが、老骨おつくうになり失礼しています。あしからず。

52 小川善次郎

幹事の方々の御尽力で、静中・静岡関東52期会ならびに総会が年々盛大に行なわれますことは嬉しいことでもあります。今年は思いもかけなかった家の改築をすることになり、目下仮住いで体の調整に精一杯という日々を送っております。

千葉の山舎に隠棲し、野菜作りをしております。東京を離れ疎遠になり申し訳ありません。

56 伊東 卓爾

三月に56期同窓会のお知らせをなつかしい方々のお名前をいただきました。土曜日夜つとめで欠席ですが、本当に五十周年も真近かです。お元気で。

久しく静岡にも行きません。浅間さんや、静中校庭からの富士山も目に浮かびます。今後よろしく。

59 近藤 陽三

相変らず、仕事とホッケー(陸上)で、東奔西走している。専任コーチとして一昨年の山梨国体では総合優勝。昨年の沖縄国体では準優勝をさせ面目をほどこした。

現在、昭和67年の山形国体(ホッケーは川西町)に向って着々と成果をあげつつある。

61 西田駿之介

同窓会幹事の皆様方に感謝いたしております。

53 伊東 守

幹事として活躍していた鈴木惣吉君が任地の伊勢で、10月24日脳動脈瘤破裂で倒れてから意識回復せぬまま62年11月18日死去、58才の人生を終えた。一週間前の電話が最後、まことに残念な極悲しい事である。友人代表川手君弔辞を述べ、同期生集いで野辺に送り冥福を祈る。

62 大村 敏夫

62年9月転居致しました。
孫(嫁いだ娘の長女)も一才の誕生日を迎え可愛くなりました。時々会うのが楽しい年令になりました。

事務局の皆様のご健勝をお祈り

り申し上げます。

67 小杉 謙一

人生五十五年となり、そろそろ第二の人生、住居のこと等計画に頭を悩ます此頃です。

このところ総会に出席出来ず残念に思っております。幹事の方々に感謝致します。

70 河井 良夫

松坂屋の東京本社に勤務しております。銀座にお出かけの節はぜひお声をかけてください。

70 北村 孝

海上保安庁が持っている航空機の世話をする仕事に携わっています。

霞が関の運輸省の上にある航空管理官というセクションに居りますのでお立寄り下さい。

70 遠藤 藤弥

アルミサッシの営業に携ってや三十年が経過する。和風住宅用から洋風住宅ツープイフオー住宅向けが特に増加しているのがこの十年間の変遷です。開き窓や出窓が多く、従来の引き違い窓は一軒に一ヶ所あるかないか。色も白か黒かの時代です。

(新日軽勤務)

70 牧野 甫

現在東レ(株)大阪本社勤務で単身赴任中です。同業の旭化成の世古

社長が静中の大先輩であることを名簿で知り、大変嬉しく存じました。世古社長のご健康ご活躍を紙上をおかりしお祈りします。

71 曾根 幸一

私共の学年は、後藤弘枝さんの御世話で、数人の方々と旧交を温めております。

71 石川 宏

本部同窓会との会費払込みの一元化は不可能でしょうか。横着者には至極面倒ですが……。

・本部とは接渉しているのですが色々問題があつて難航中です。

72 仁藤 宏次

いつも遅くなって申訳ありません。勤めながら勤務時間が長く、出席出来ず、すみません。

東京駅大丸も新しくオープンしました。一度お立ちより下さい。

一階におりますので、お会い出来ると思います。

88 山野 武尚

特アイザックの課長をしています。この会社の社長が静高(35年卒)です。社長から同窓会の名簿を見せてもらい、もう東京へ来て六年目ですので、同窓会に入りたいと思ひ筆をとりました。

尚、情報処理学会正会員・電子情報通信学会正会員ですので、学

会に入りたい人を推してもよいです。

98 池ヶ谷 雄枝子

この度、四月より東京に引越してまいりました。

五月に板橋の方に「にこにこ指圧」を開業しましたので、お知らせいたします。

なにごん開業したので開店休業状態ですが、頑張ろうと思っています。

六二年度会費拠出者

(順不同・敬称略、括弧内口数)

昭和62年12月1日～63年3月31日

期別

三〇 神谷啓作

三三 幡野儀作

三五 永野清

四〇 杉本四朗、和田連二

四一 山田栄一

四二 村松直、坂野隆介、井上寿

四三 三宅静雄、山家清

四四 白井茂、長田寿雄、小沼武

四五 長野寿一郎、森川泰

四六 伊藤敬三、黒田朋彦、蝦原

四七 一 郎

四八 篠原清、八木健司、角替徳

四九 就

五〇 亀山敏男、山村俊夫、後藤

五二 卓郎、野口真、佐津川太郎

四八 加藤博、岩崎鑑一、北村三

明、鍋田親一、佐々木英夫

四九 上杉一郎、石割敏夫

五〇 深沢八郎、篠原博

五一 鈴木孝雄、下山富太郎(4)

五二 小川善次郎、勝又良男、上

林明

五三 大石敏、小野一夫、望月昂

田辺信次

五四 高井昂、佐野資郎、黒岩勇

五五 塚越修、吉野悟郎

五六 伊東卓爾、山田隆、松田光

彦、山口弘、佐々木俊夫

五七 天野喜久雄、富田澄、高橋

礼久、坂田秀雄、加藤健三

米沢正次、森下恒彦、望月

修、鳥居義彦、菅稔

渡辺武男

五八 望月恵一、島村悟、田熊博

邦、須山静夫、宮崎佐一郎

五九 青山勇、狩野和男、川田昭

青木静男、酒井哲夫、長谷

川邦三、鈴木義男、青木豊

近藤陽三、大村和夫、原淳

増田真一、佐野英一、望月

靖久、朝比奈正二、本田豊

小沢将男、小沢武彦

六〇 山本雅之助、鈴木正己、鈴

木明、渡辺博、服部昌夫、

野沢栄司、山本正三、萩原

莊太郎

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科

人間ドック

熱 函 病 院

院長 小 坂 博 (67期)

住所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3131

新東京印刷株式会社

代表取締役 梶 原 由 三 (67期)

東京都中央区八丁堀2-1-7 神鋼ビル

TEL 03-553-8981 (代表)

- 六二 高村岳史、花見久、宇都宮道和、西田駿之介、長瀬節大村富士男、大石次男、八木貞二、鈴木孝、相羽達雄、杉本幸貞
- 六三 寺尾寿夫、海野昭平、真田宗明、大石一輔、伊東守、鈴木新之輔、遠藤良司、稲森茂、深見一正、勝山弘之、加藤平三郎
- 六四・六五 渡辺宏一、益頭尚文、神谷武男、阿部修治、新井彰、
- 六六 石川制二、三原載、早見幸雄、村越立彦、大村敏夫、山梨裕司、浜田裕志、山下裕一、山本俊夫
- 六七 岡村英二郎、鳥居滋夫、増田安国、増田正高、小杉謙一、山岡進、手塚重明、山形誠、戸塚惣雄、小沢俊二、仁科将、河口浩、丸尾敏夫、大川庄治、市原卓、瀬口寿一郎、伊月喬、小林功典、鈴木国功、佐藤忠行、原英子(4)
- 七〇 清水今一郎、松山多美、藤巻貞夫、西山信三、小佐野榮雄、河井良夫、谷川治弘、宮代省一、大場良臣、白石通子、水野博司、原田行造、隆山田、田中元、遠藤藤弥
- 七二 牧野甫、村松勝治、鈴木清石本明、山本正夫、松浦洋一郎、池ヶ谷慎男、大長智金子雅彦、野田卓男、松永茂、小長谷清実、石川悟、松井昌夫、有田久、北村孝松隈明雄、望月泰弘、坂本康、横山元二、柳沢伯夫(3)、曾根幸一、酒井力、安藤竜男、石川宏、片山嘉博、友田勲、徳田武司、相川東一、松隈道雄、本間啓司、小池泰光(4)、今村清彦、丸山安彦、武井正和、仁藤安次、石川正明、八木伸明、陰山勇一、黒岩嘉明
- 七三 近藤守、杉山光、望月公美、中川明久、三枝通康、小柳忠義、大石堯史、鈴木智彦、深沢靖男、石割浩司、松永烈、利根川正、仲川信正、山下勇三、榎原由之、羽山武、山梨由記、有光一郎、宗像純司、山中博司、杉山親司、石川征四郎、松永文夫、山崎智弘、杉山正三、加藤甫、和田武郎、清水純、内山明夫、山内章、見城尚志、野々田昶
- 七四 後藤正義
- 七五 藤江通昌、中川武久、諸星勝保、大石孝裕、日向秀子
- 八〇

(4)、長倉利夫
八九 牧野範夫

その後の同窓会活動

(62年12月・63年5月)

◇幹事会兼忘年会

・62年11月11日(金) 18時
・築地スエヒロ 会費三千円
・出席者 37名

◇新年顔合せ幹事会

・62年のまとめ
・会報24号の発送依頼
・年会費納入促進の依頼
・63年1月14日(木) 18時
・ビストロ・ラ・ポスト

◇幹事会

・63年3月15日(火) 18時
・築地スエヒロ

◇幹事会

・63年4月5日(火) 18時30分
・63年4月5日(火) 18時30分
・築地スエヒロ

◇幹事会

・63年4月5日(火) 18時30分
・63年4月5日(火) 18時30分
・築地スエヒロ

◇幹事会

・63年4月5日(火) 18時30分
・63年4月5日(火) 18時30分
・築地スエヒロ

◇幹事会

・63年4月5日(火) 18時30分
・63年4月5日(火) 18時30分
・築地スエヒロ

◇幹事会

・63年4月5日(火) 18時30分
・63年4月5日(火) 18時30分
・築地スエヒロ

同窓会コンベンなど、ご相談ください。

伊豆大仁カントリークラブ 伊豆大仁開発株式会社

代表取締役 石橋正秋
取締役支配人 安田正弥 (66期)

静岡県田方郡大仁町浮橋字南松坂1198-1
TEL 0558-76-2401 (代表)

国際線航空貨物・海外旅客取扱
運輸大臣登録旅行業代理店業3440号

株式会社フジ・ワールド・エンタープライズ

代表取締役 中馬敏雄 (70期)
〒105 東京都港区浜松町1-29-7 河原ビル
貨物電話 434-0591 (代)
旅客電話 437-5861 (代)
直通 433-6651
FAX 434-5537

・63年度総会(6月23日)について、またその案内発送依頼など、作家の三木卓(70期)氏の講演「中国旅の思い出」

五十四期

昨年十一月、新橋駅前「太洋」で関東五四季会を開き十数名の参加を得たので、今年も開きたいが、日時・場所・費用等意見があったら教えてほしい。

静岡の何人かにも呼びかける予定だが、誘って欲し級友が居たら出来るだけ連絡をとるつもりだから一報を乞う。

(いはら)

建築設計・監理

株式会社 ユニオン設計センター

代表取締役 成岡英彦 (67期)

一級建築事務所登録7425号
東京都新宿区西新宿7-14-9 規格ビル
TEL 03-363-8604 (代表)

名簿補遺訂正表 (変更事項 新入会員) 62.11.1~63.5.31 ●自営 ▲勤務先 ■学生

名簿訂正

- 49 上杉 一郎 副社長削除
50 深沢 八郎 255 神奈川県大磯町東小磯725-14
54 磯野 修 ▲八千代国際大学政治経済学部
【0474-88-2111】
57 鳥居 義彦 ▲東洋食品機材㈱【045-571-1311】
60 井田 淳 股份→股分
〃 尾崎 竜男 竜男→龍男
〃 河合 陸朗 陸郎→陸郎 ▲ウチヤサーモスタット
【03-834-8421】
〃 里見元一郎 【03-776-3924】
〃 猿谷 有弘 【0488-85-7129】 ▲【03-252-0954】
〃 柴田 正臣 NHKコンピューターサービス
〃 堤 崇 【03-445-9798】
〃 寺尾 道也 【03-429-0048】
〃 野沢 栄司 260 千葉市登戸2-2-13
〃 萩原莊太郎 ▲セナー 【03-506-5331】
〃 原 善三郎 ▲NHK日本語センター
【03-506-5331】
〃 逸見 昭三 281 千葉市幕張西2-11-15-503
▲県立千葉女子高
戸塚区→泉区
〃 満間 猛 ▲持種製紙
〃 山崎 久雄 5-39-15→4-39-15
〃 山路 敬三 305 茨城県つくば市吾妻2丁目814-6
〃 山本 正三 ●高村税務会計事務所
61 高村 岳史 【03-487-5461】
64 新井 彰 146 大田区矢口3-28-8-1108
【03-750-1295】 ▲国際ヴァン㈱
取締役副社長【03-211-6131】
〃 阿部 修治 勤務先削除
66 大村 敏夫 181 調布市西つつじヶ丘3-37-2
横田ファイブ1011
67 山形 誠 ▲(財)日本冷凍食品検査協会
70 松浦洋一郎 144 大田区西蒲田2-5-3-301
【03-751-7768】 ▲東京高等裁判所第三特別部
〃 谷川 治弘 船橋市夏見台4-19-4-211
〃 福屋 武人 277 千葉県東葛飾郡沼南町大津ヶ丘
3-11-10【0471-91-7003】 ▲川村学園
女子大学【0471-83-0111】
〃 宮本 達司 150 渋谷区代官山町4-1-407【03-496-
1135】 ▲輝麟㈱【03-380-6711】
〃 松島 悦雄 192-02 稲城市平尾385 平尾住宅
63-303 ▲日産建設関東支店【03-804-
3391】
〃 平川 元美 222 横浜市港北区仲平町1-9-5【045-
434-4391】 ▲(株)ヤナセ
【03-453-4311】
〃 大地不二夫 ▲ゼネラル石油大阪支店
【06-441-6778】
〃 高木 康博 185 国分寺市西恋ヶ窪2-20-15

- 〃 山田 恒男 【0425-41-8153】 ▲神奈川青果
【044-975-2385】
〃 望月 泰弘 【0474-85-0672】 ▲【03-211-2351】
89 渡辺 晃→渡辺 昇
98 福岡 将文 113 文京区弥生2-8-2 糸徳弥生ハイッ
201【03-816-4950】
100 松本喜一郎 153 目黒区五本木2-52-6 すみれ荘
1-A【03-719-8903】
102 杉本 丈洋 145 大田区東雪ヶ谷3-10-11五十嵐方

新規加入

- 51 小川八十次 233 横浜市港南区丸山台3-20-12
【045-843-6526】
〃 河瀬 士郎 146 大田区矢口2-4-7【03-759-3226】
〃 藤田修二郎 272 市川市東菅野1-25-21
【0473-34-8738】
〃 宮野 守信 272 市川市菅野1-23-24
【0473-23-0825】
〃 大平 泰三 960 福島市森合字台15-1
【0245-33-2320】
70 岩崎 修 243 厚木市妻田1806-7 中野方
【0462-23-2701】 ●岩崎法律事務所
【0452-52-2946】
〃 柳沢 伯夫 100 千代田区永田町2-1-2 衆議院第二
議員会館414【03-508-7414】
75 川崎 康弘 243-01 厚木市森の里1-7-5
【0462-47-7729】
〃 後藤 正義 156 世田谷区船橋3-9-16
【03-439-1341】 ●生保代理
〃 浜崎 伸光 108 港区高輪4-20-34 静岡銀行高輪寮
22【03-447-7623】
▲静岡銀行銀座支店長
81 中田 強 221 川崎市中原区小杉町2-228
日石小杉アパート1352
【044-711-3466】 ▲日本石油本社
【03-502-9139】
88 山野 武尚 171 豊島区南池袋3-24-21 メゾンフジ
103【03-980-9577】 ▲(株)アイザック
【03-293-6460】
98 池ヶ谷 枝子 173 板橋区熊野町29-9
【03-530-6225】 ●指圧業

転出

- 47 後藤 卓郎
62・63 石上 昭夫 柴田 有年 田喜 光
中野喜久男 野田 幹郎 福岡純一郎
水越 巖
70 勝間田保夫 川村 良平 大村 政忠

死亡

- 46 角替 徳就
62・63 鈴木 惣吉

株式会社 富士越
株式会社 富士越化成

代表取締役 野澤 正 憲 (64期)

東京都渋谷区東2-14-9

TEL(409)3342代

TEL(400)9541代

不動産のご用はぜひ

三井不動産販売ネットワーク

城南リハウス株式会社

目黒店・自由が丘店・蒲田店

日東不動産株式会社

取締役社長 田島 弘一郎

取締役副社長 調子 達郎 (70期)

東京都目黒区下目黒1-3-27

TEL 03(491) 0171代

鈴 与 株 式 会 社

取締役会長 鈴木 与平 (44期)

清水市入船町11-1

Tel 0543 (53) 3111 (大代表)

東京支社 千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル4F

Tel 03 (284) 0551 (代)

トッパン・ムーア株式会社

取締役社長 宮澤 次郎 (42期)

東京都千代田区神田駿河台1-6

TEL (295) 2411 (大代表)

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1-5-1

TEL (833) 2111 (大代表)

本田技研工業株式会社

川島 喜八郎 (52期)

東京都渋谷区神宮前6-27-8

TEL (499) 0111 (大代表)

株式会社 東 電 社

取締役社長 岩波 信平 (42期)

東京都中央区日本橋2-1-21

TEL (271) 2701 (大代表)

日本レーベル印刷製

代表取締役 岩井 平一郎 (57期)

本 社 静岡市国吉田645

TEL 0542(62) 1111 (代)

東 京 中央区京橋1-2 越前屋ビル

TEL 03(272) 4651 (代)

自動車・電機部品の自動塗装及びシルクスクリーン印刷

製 勝山塗装工業所

代表取締役 奥澤 徹 (59期)

本社工場 横浜市瀬谷区橋戸3-25-6 〒246

Tel 045-301-5545 FAX 045-301-5547

大和工場 大和市深見3706-1 〒242

Tel 0462-62-0340 FAX 0462-62-0343

東松山工場 東松山市大字新郷88-47 〒355

Tel 0493-24-2511 FAX 0493-24-2513

建築コンサルタント・設計施工業務

建築に関する御相談は御気軽に……

株式会社 大 雄

取締役社長 奥野 孝 (53期)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階

TEL 03-834-5331 (代表)

建築設計・監理

製 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥野 孝 (53期)

取締役社長 奥野 進 (56期)

取締役副社長 奥野 広 (58期)

本 社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル

Tel 03-842-6831 (代表)

静岡事務所 静岡市安東2-8-14

Tel 0542-46-9378

総合広告代理店

株式会社 アドプロ

代表取締役 朝比奈 正三 (67期)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階

TEL 03-254-2171 (代表)